

JAMBIO 設立記念講演会

# 井上博士が細胞分裂語る

## マクロな見方も大切に

海洋生物研究や調査の拠点を目指すマリンバイオ共同推進機構(JAMBIO)の設立記念に、米国ウッズ

ホール海洋生物学研究所の井上信也博士を招き、先月9日に大学会館特別会議室で特別講演会が開かれた。

博士は、1948年に茶筒などを利用して偏光顕微鏡を自作。それを使い、それまで存在が証明されてい

なかった細胞の分裂装置を生きた状態で見ることに成功し、2003年には国際生物学賞を受賞した。

演題は「How do I living cell divide? (生きた細胞に聞く分裂のカラクリ)」。講演は、博士が初めて作った偏光顕微鏡の設計図や、ユリの花粉やウニの卵などの細胞分裂の動画などをスラ

イドで見せながら行われた。偏光顕微鏡は光学顕微鏡の1種で、試料に偏光特定の振動方向をもつ光波を照射し、試料の中の結晶や特定構造を観察することが出来る。偏光顕微鏡の精度の上昇や、ビデオを使うことで細胞構造が観察しやすくなることも語り、訪れた人たちは、うなずいたり、時々感嘆の声を上げたりし

ながら、聞き入っていた。質疑応答では、井上博士が「一つひとつの質問に丁寧に答えた。今後の細胞研究の展望に関する質問には、「近年はさらにミクロへと

いう傾向があるが、いろいろな生物の細胞を見るとマクロな視点も大事」と答えた。品川区から来た女性

性は「ビデオが生きたものを見るのに役立つということが面白かった」と話した。

JAMBIOは本学下田臨海実験センターと東京大学海洋基礎生物学研究推進センターが共同で運営する組織である。昨年6月に、

文部科学省共同利用・共同研究拠点(ネットワーク型)に認定された。拠点名は「海洋生物学研究共同推進拠点」だ。認定期間は、今年度から6年間である。

井上博士は、1948年に茶筒などを利用して偏光顕微鏡を自作。それを使い、それまで存在が証明されていなかった細胞の分裂装置を生きた状態で見ることに成功し、2003年には国際生物学賞を受賞した。演題は「How do I living cell divide? (生きた細胞に聞く分裂のカラクリ)」。講演は、博士が初めて作った偏光顕微鏡の設計図や、ユリの花粉やウニの卵などの細胞分裂の動画などをスライドで見せながら行われた。偏光顕微鏡は光学顕微鏡の1種で、試料に偏光特定の振動方向をもつ光波を照射し、試料の中の結晶や特定構造を観察することが出来る。偏光顕微鏡の精度の上昇や、ビデオを使うことで細胞構造が観察しやすくなることも語り、訪れた人たちは、うなずいたり、時々感嘆の声を上げたりしながら、聞き入っていた。質疑応答では、井上博士が「一つひとつの質問に丁寧に答えた。今後の細胞研究の展望に関する質問には、「近年はさらにミクロへと

いう傾向があるが、いろいろな生物の細胞を見るとマクロな視点も大事」と答えた。品川区から来た女性性は「ビデオが生きたものを見るのに役立つということが面白かった」と話した。JAMBIOは本学下田臨海実験センターと東京大学海洋基礎生物学研究推進センターが共同で運営する組織である。昨年6月に、文部科学省共同利用・共同研究拠点(ネットワーク型)に認定された。拠点名は「海洋生物学研究共同推進拠点」だ。認定期間は、今年度から6年間である。